

電源立地地域対策交付金により造成した基金の状況 (H30. 3. 31 現在)

(No. 1)

基金の名称	地域創生基金 (ベトナム籍外国人への支援事業)
基金の額 (交付金相当額)	1, 718, 000 円 (1, 718, 000 円)
基金事業の概要	社会保障や医療、就労、教育、暮らしの問題といったベトナム籍外国人が直面する課題やニーズに応じたベトナム語での相談体制を整備するため、ベトナム語での相談事業を実施しようとする団体に対して助成を行う。
基金事業の終了時期	平成 30 年度 (予定)
基金事業の目標	県内で増加しているベトナム人の、言葉の壁による生活情報の不足を改善する。

(No. 2)

基金の名称	地域創生基金 (伝統文化研修館事業)
基金の額 (交付金相当額)	2, 841, 000 円 (2, 841, 000 円)
基金事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化研修館活用推進協議会の設置・運営 ・ 伝統文化研修事業の実施 ・ 開設 2 周年記念事業の開催
基金事業の終了時期	平成 30 年度 (予定)
基金事業の目標	伝統文化の継承・普及・発展に寄与する事業を展開し、青少年等の文化的素養の向上や育成、国際化を踏まえた自国文化の理解促進などを図る。

(No. 3)

基金の名称	地域創生基金（こどもの館維持管理事業）
基金の額 （交付金相当額）	40,488,000 円（40,488,000 円）
基金事業の概要	兵庫県立こどもの館の維持管理に係る経費に充当する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	児童の健全な遊びと演劇、舞踊、工芸等の創造活動を通じ、その健康を増進するとともに、情操を豊かにすることにより、すべての児童の健全な育成を促進する。

(No. 4)

基金の名称	地域創生基金（県立いえしま自然体験センター維持管理事業）
基金の額 （交付金相当額）	9,693,000 円（9,693,000 円）
基金事業の概要	県立いえしま自然体験センターの維持管理に係る経費に充当する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	自然に親しみ、自然を理解し、自然と共に生きる体験をする機会を提供することにより、人と自然、人と人とのつながりを深める。

(No. 5)

基金の名称	地域創生基金（歴史博物館事業）
基金の額 （交付金相当額）	39,589,000 円（39,589,000 円）
基金事業の概要	県立歴史博物館の維持運営に係る経費に充当する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	歴史博物館の運営を通して、郷土の歴史に関する県民の理解を深め、教育・学術及び文化の発展に寄与する。

(No. 6)

基金の名称	地域創生基金（ものづくり体験館体験事業）
基金の額 （交付金相当額）	65,493,000 円（65,493,000 円）
基金事業の概要	<ul style="list-style-type: none">・ものづくり体験学習（中学生団体利用）・ものづくり体験講座（小中学生対象）・ものづくり体験館 P R 活動
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	将来の進路を考える上で重要な時期となる中学生等に対し、本県産業の礎となるものづくりへの関心を高めるとともに、職業としてのものづくりの魅力、奥深さを伝えるため、本格的なものづくり体験の機会と場を提供する。

(No. 7)

基金の名称	地域創生基金（最先端技術研究事業）
基金の額 （交付金相当額）	61,579,000 円（61,579,000 円）
基金事業の概要	今後成長が期待される次世代産業分野において、産学間連携による萌芽的な研究調査や、立ち上がり期の予備的・準備的な研究プロジェクトに対し、調査、試験分析、試作等に係る費用を補助する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	研究プロジェクトの実用化に向けて、国等が実施する本格的な研究開発へとつなげていくことにより、県内次世代産業の拡大や創出及び県内産業構造の高度化、県経済の活性化を図る。

電源立地地域対策交付金により造成した基金の状況 (H30. 3. 31 現在)

(No. 1)

基金の名称	環境保全基金（地域資源を活用した再エネ導入促進事業）
基金の額 （交付金相当額）	6,858,000 円（6,858,000 円）
基金事業の概要	地域資源を活かした再エネの導入を検討する地域団体の事業立ち上げ時の取組等を支援し、県内の地域主導による再エネの普及を目指す。 さらに、ひょうご環境創造協会と連携し、全県モデルとなり得る先進的な再エネ発電設備のハード整備に係る費用を支援し、バランスのとれた再エネの導入を促進する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	「兵庫県地球温暖化対策推進計画」に基づき、2020年度に再生可能エネルギーによる発電量50億kWhを目指す。(2030年度に70億kWhが最終目標)

(No. 2)

基金の名称	環境保全基金（再生可能エネルギー相談業務）
基金の額 （交付金相当額）	2,481,000 円（2,481,000 円）
基金事業の概要	中小事業所や家庭における省エネ及び再生可能エネルギー全般の相談に対応する相談員の設置にかかる経費に充当する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	相談体制を充実させることにより、省エネの普及及び再生可能エネルギーの導入を拡大し、「兵庫県地球温暖化対策推進計画」に掲げる ①温室効果ガスを2030年度に2013年度比で26.5%削減 ②再生可能エネルギーによる発電量を2030年度に70億kWhの達成を目指す。

(No. 3)

基金の名称	環境保全基金（温暖化からひょうごを守る適応策推進事業）
基金の額 （交付金相当額）	1,746,000 円（1,746,000 円）
基金事業の概要	地域特性に応じた地球温暖化の影響への適応策に取り組むため、県独自の適応計画策定に向けて、県民の意識醸成及び県民協働による温暖化影響調査に関連する以下の項目に充当する。 <ul style="list-style-type: none">・ 関連研究機関と連携した温暖化の将来影響の予測・ 県民協働による温暖化事象影響調査・ 適応策理解促進のためのワークショップ等の開催
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	県内地域の特性を踏まえた適応策を盛り込んだ「兵庫県適応計画」の策定を目指す。

(No. 4)

基金の名称	環境保全基金（地球温暖化防止活動推進事業）
基金の額 （交付金相当額）	2,382,000 円（2,382,000 円）
基金事業の概要	「兵庫県地球温暖化対策推進計画」に掲げる目標達成のため、地域住民に対して行政が取り組む家庭部門対策や温暖化対策の普及啓発を行う地球温暖化防止活動推進員の活動を支援する。 <ul style="list-style-type: none">・ 活動経費の支給（実費負担分）・ 県内各地域推進連絡会総会及び関係機関と推進員との意見交換会の開催・ 推進員と連携した普及啓発活動の実施
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	県内の温室効果ガスを 2030 年度に家庭部門は 43%削減（2013 年度比）するとともに、部門全体で 26.5%削減を目指す。

(No. 5)

基金の名称	環境保全基金（ひょうご環境体験館事業）
基金の額 （交付金相当額）	30,488,000 円（30,488,000 円）
基金事業の概要	ひょうご環境体験館に関連する、下記の項目に充当する。 ・施設の維持管理費 ・体験型環境学習・教育事業の実施 ・広報事業
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	地球温暖化対策等の環境問題に係る学習拠点施設「ひょうご環境体験館」（平成 20 年 3 月 20 日開設）において、導入した地球温暖化対策技術等の見学や体験型環境学習・教育事業を実施し、県民等の地球・地域環境の危機的状況の認識を深め、日常生活での実践活動を促進する。

(No. 6)

基金の名称	環境保全基金（豊かで美しい瀬戸内海の創生）
基金の額 （交付金相当額）	9,000,000 円（9,000,000 円）
基金事業の概要	多くの人々が豊かで美しい里海の再生に関わっていく気運を醸成するとともに、藻場等の再生・創出により豊かで美しい里海の実現を促進するため、地域団体等が中心となり新たな藻場等の再生・創出及び調査活動等の実践活動に対して助成等を行う。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	瀬戸内海環境保全特別措置法の基本理念を踏まえ、瀬戸内海を水質が良好な状態で維持されるとともに、生物の多様性及び生産性が確保される等、その価値及び機能が最大限に発揮された「豊かで美しい里海」とすることを目標とする。

(No. 7)

基金の名称	環境保全基金（ひょうご環境担い手サミット開催事業）
基金の額 （交付金相当額）	684,000 円（684,000 円）
基金事業の概要	環境問題が複雑化しており、多様な主体が連携し活動を上げないと問題の解決が困難である。そのため、活動内容、年齢、NPO や企業、個人など多様なスタイルで活動している担い手が世代や分野を越えて一堂に会し、交流や意見交換を通じて互いに深く知り合い、協働取組による活動の拡がりや可能性について議論する。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	環境保全活動に取り組む担い手が一堂に会し、活動発表や意見交換を通じて担い手同士の連携や協働取組を促進し、地域力の向上を図る。

(No. 8)

基金の名称	環境保全基金（幼児期の環境学習ネットワーク化推進事業）
基金の額 （交付金相当額）	500,000 円（500,000 円）
基金事業の概要	幼児期の環境学習プログラムを実施する専門家や環境学習プログラムを持っている専門家、NPO 等を派遣する。 ・対 象 環境学習に取り組む幼稚園、保育所、認定こども園 ・派遣者 環境及び保育両方に精通する専門家（学識、環境学習実践家など） 環境学習プログラムを持っている NPO、企業、地域団体
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	専門家の派遣を実施し、幼稚園、保育所、認定こども園が継続的に幼児期の環境学習に取り組むことができる体制を整備する。

(No. 9)

基金の名称	環境保全基金（次世代エネルギー開発促進事業）
基金の額 （交付金相当額）	3,390,000 円（3,390,000 円）
基金事業の概要	<p>エネルギー分野における新たな課題・動向に対応して、エネルギー先進の兵庫を創るための以下の取組に充当する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 水素社会戦略研究会を開催し、水素社会実現に向けた取組方針等を検討する。・ 日本海側の広域ガスパイプラインの実現に向け、研究会の開催や国に対して要望活動を実施する。・ メタンハイドレートの開発促進への県民の気運を醸成するため、講演会やイベント等の開催を通じてPR活動を行う。
基金事業の終了時期	平成 30 年度（予定）
基金事業の目標	<ul style="list-style-type: none">・ 水素をエネルギーとして利用する水素社会に向けた取組の推進。・ 日本海側でのガスパイプラインの構築によるエネルギーセキュリティの向上に向けた取組の推進。・ 新たなエネルギー資源として期待されているメタンハイドレートの開発促進への気運醸成。